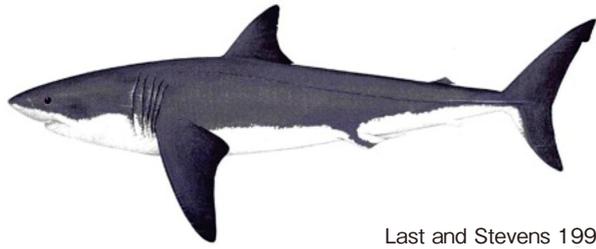


ホホジロザメ 日本周辺

Great White Shark, *Carcharodon carcharias*



Last and Stevens 1994

管理・関係機関

国際連合食糧農業機関 (FAO)
絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約, CITES)

最近一年間の動き

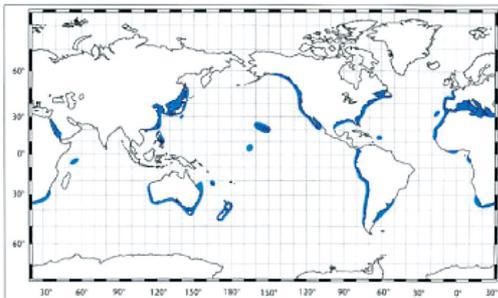
世界的には、特に目立った動きは見られなかった。全般に日本周辺での出現報告は少なく、2012 年は茨城県、2013 年は大分県で出現が確認されている。

生物学的特性

- 寿命：おそらく 22 年以上、放射性炭素同位体に基づく推定では、雌で 40 年、雄で 73 年は生存するとされている。
- 成熟開始年齢：雌 7～13 歳、雄 4～10 歳
- 繁殖期・繁殖場：2～3 月・沖縄
4～5 月・南西日本沿岸域
- 索餌場：熱帯・温帯の沿岸域
- 食性：硬骨魚類、さめ類、海棲哺乳類、海鳥、ウミガメ等
- 捕食者：シャチ

利用・用途

鰭はフカヒレスープの原料に、肉は食用になる。また歯や顎が工芸品にされ高価格で取引されるが、我が国ではほとんど利用されていない。



ホホジロザメの分布 (Last and Stevens 1994)

漁業の特徴

わが国に本種を対象とする漁業はなく、漁獲情報は不明である。稀に定置網に迷入する。

漁業資源の動向

文献や新聞等に記録された本邦周辺海域の本種の年別出現数をみると、過去 50 年間にわたりほぼ均等な頻度で出現が記録されている。1992 年に 12 件、1993 年に 6 件の報告があるのは、1992 年の本種による事故でマスメディアの関心が集まった結果、例年よりも熱心に報告されたためと考えられる。2000 年以降は、出現記録のない年もあるが、日本周辺海域においてほぼコンスタントに確認されている。

資源状態

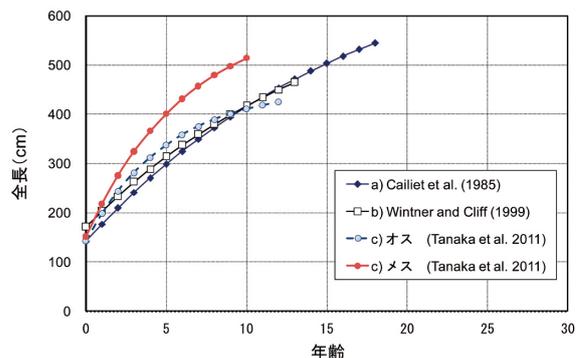
ホホジロザメを漁獲する漁業はなく、本種資源を定量的に分析できる資料はない。全国の定置網に偶発的に迷入された記録等があるのみである。

管理方策

我が国には本種を目的とした漁業はなく、積極的な漁獲努力は行われていないので、特に管理方策を策定する必要はないと考えられる。なお、本種が絶滅の危機にあるとして、2004 年のワシントン条約第 13 回締約国会議では、附属書 II への掲載がオーストラリア、マダガスカル共同で提案され、採決の結果、掲載提案が採択された。このことから、ホホジロザメの魚体、ヒレなどを含む一切の派生物を国際取引する際、輸出国による輸出許可書の発給が必要等、ワシントン条約による制限がなされている。

資源評価まとめ

定量的に分析できる資料はない。



ホホジロザメの成長曲線

資源管理方策まとめ

- 管理方策を策定する必要はないと考えられるが、定置網への偶発的な迷入等に関する情報収集を継続し、資源の動向を注視する。

ホホジロザメ (日本周辺) の資源の現況 (要約表)

資源水準	調査中
資源動向	調査中
世界の漁獲量 (最近5年間)	調査中
我が国の漁獲量 (最近5年間)	年間1～5個体の出現が報告されている